

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790300503		
法人名	株式会社 人輝		
事業所名	グループホーム 輝たむら		
所在地	郡山市田村町金屋字上川原269-1		
自己評価作成日	令和5年7月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do">http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク		
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地		
訪問調査日	令和5年8月3日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が住み慣れた地域で、地域の方々との交流を行い、地域社会との繋がりを大切にしていきます。また、季節ごとの行事にも力を入れて、1年を通して季節を感じて頂けるよう、利用者様に笑顔になって頂けるよう支援していきます。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域密着型サービスの役割を理解し、地域の方々と積極的に交流しようとし、地域とのつながりを大切に、利用者が住んでよかったと思える事業所づくりを心掛けている。ケアの質の向上のためには、職員の働く意欲と資質の向上が欠かせないことを理解し、積極的に研修等に参加することを進めると同時に、職員の負担軽減などにも取り組んでいる。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に理念を掲示し、朝礼時に唱和していたが、コロナ感染防止のため現在は行っていない。職員同士、情報共有し実践に繋げている。	理念に基づいて日々行動し、常に笑顔を忘れずふれあうことで、利用者と職員が、自然と笑顔になられた時に理念が活かされていると考えている。ケアの仕事は、チームワークを大切に協調性を持って仕事進めてほしいと伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として近所づきあいや地元の活動、地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。	ボランティアの受け入れや地域との交流の場を積極的に作っていたが、コロナ感染防止のため現在は実施できていない。	小学校の運動会と中学校の文化祭の誘いはあったが、コロナ禍になってしまい参加できていないが、今後は状況を見ながら参加の方向で検討してゆきたいと考えている。中学生に職業体験の機会を設け、介護の仕事への理解を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域の方々との交流の場を設け、事業所の実情を伝えて、認知症に対して理解して頂けるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、グループホームでの取り組みやヒヤリ、事故報告をして意見交換を行っていたが、現在はコロナ感染防止のため開催できていない。	会議の中で情報をいただき、地域の行事やイベントがあれば、声をかけて貰い、積極的に参加しようとしている。参加者全員に発言してもらえよう、意見が出やすいよう、会議で出された意見をケアに取り入れている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、積極的な協力関係を築けている。	電子メールで、介護保険の最新情報や災害情報等を受け取っている。問題が発生したときは、できるだけ窓口へ足を運び、市の担当者とコミュニケーションを取るようになっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の事例はない。	言葉の拘束をしないように気を付けている。業務に追われてしまうと、ちっと待って、座っていると声かけ、利用者の行動を制限してしまうことのないようにしている。研修参加者から、ミーティング時に内部研修を行っている。	
7	福-1	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会などに積極的に参加している。	積極的に虐待についての外部研修への参加、または定期的に内部研修を行って理解を深めるようにしている。職員の疲労やストレスがケアに影響しているという事があれば、職員が代わり対応するようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の理解を活用するため、勉強会や外部研修への参加も積極的に行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明をし、理解と同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの質問や意見があった場合は、リーダー、管理者へ報告をしている。	日頃から心配事や困っている事がないか、面会時や電話連絡の際に聞くようにしている。把握した意見や要望は連絡ノートやカンファレンスにて申し送り、周知している。積極的に、事業所から話を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や管理についての職員の声に耳を傾け、活かしていくことを心がけ、職員の働く意欲の向上や質の確保を図っている。	定期的にミーティングを行い、意見や提案を聞き反映している。	職員の間関係、業務内容についての意見が出されている。職員が意見が言いやすい環境づくりを行うことで、業務の見直し、改善を行い、作業の効率化を上げる事ができ、職員の負担軽減につながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望を考慮し、シフトを組んでいる。また、向上心を持って働ける環境を整えている。		
13	福-2	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に積極的に参加を促し、職員の向上に努めている。	ケアの質の向上には職員の資質の向上が欠かせないと考え、リーダーを育てる取り組みをしている。それぞれの職員の立場や経験、習熟度に応じて、計画的な人材育成に取り組んみ、外部研修への参加を推奨している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は、外部研修に参加して他所業者との交流、意見交換など行ってきたが、現在はコロナ感染防止のため、参加できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に安心した生活が送れるよう不安や本人の思いを傾聴し、できる限り本人の意向を実現できるように取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が面会に来られた際、不安など家族の思いを傾聴し信頼関係を築けるよう務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の状況を見極めて、本人と家族の思いを傾聴して支援し、サービスに取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	行事のメニューやおやつ作りの際は、職員と一緒にいき、信頼関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来られた際、近況報告を行い、本人をサポートできる関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染防止のため、現在は外出レクができてなかったが、本人のこれまでの生活歴を傾聴し、馴染みの場所に行くなど、支援に努めている。	利用者が望む、昔なじみの場所へ外出や外食へ出かけている。家族や友人との面会は、制限なくできている。利用者の希望で、ドーナツやラーメンを食べに出かけるなど、利用者から希望を聞き、外出している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が交流できるよう、職員が介入し環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も必要に応じ、相談にのっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、関係者で本人の視点に立って意見を出し合い、話し合っていく取組を心がけている。	日々の会話の中で得た情報は、記録に残し、情報共有している。	利用者と二人になる機会がある入浴時や訪室の際に思いを聞くことが多い。入居して間もない方が、事業所での生活に不安になっている事があると話がり、本人の様子を見ながら、こちらからも不安事はないか、声をかけ話を聞くようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の面会時やカンファレンスでの情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身状態を把握し、情報共有することで、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリング、カンファレンスを行い、その時の状態に応じた介護計画を作成している。	利用者のできる事、したい事を把握し支援し、役割を持って生活できるようにしている。状況に変化があったときは、再アセスメント、ケアプランの再作成を行っている。本人や家族の意向を反映させた計画づくりをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定期的に行っており、職員間で情報共有し、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりに合ったサービスの提供を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加やその人らしく安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携を図っている。	利用者の身体あるいは精神状態に変化があれば、すぐにかかりつけ医へ連絡し指示を受けるようにしている。歯科については、往診に来てもらっている。家族が受信に同行したときは、薬の変更等の報告を貰うようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常日頃の状態の報告をし、利用者様の状態把握に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族や病院の相談委員と密に連絡を取り、連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期について説明し、理解をして頂いている。	重度化や終末期に、家族には面会を増やしたり泊まってもらうようにしている。状態変化に早期に気づき、医療機関と密に連絡を取るようになり、本人・家族にとって安心できる環境を作るようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応については、改めて訓練を行う予定。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い、避難方法や誘導の仕方については、全職員が身につけている。	消防署の協力を得て訓練を実施している。訓練後、動線に物を置かない、避難は、できるだけ遠くへ避難するようにと指摘を貰っている。夜間の災害を想定しての訓練を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様への言葉遣いには、気を付けている。	日々の業務のなかで、一人ひとりの性格を把握しプライバシーを損なわない声かけを行う様、話し合いをしている。声かけの際、声のトーンに気を付けている。利用者同士で、尊重やプライバシーを損ねるようなときは職員が間に入り互いの話を聞くようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様本人に意思確認をし判断して頂いている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に沿った支援を心がけている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の衣類の選択など、その人らしく身だしなみやおしゃれができるように支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている。	行事のメニューやおやつレクなどの時は、利用者様の食べたい物を聞き取り、一緒に作っている。	行事等のメニューは、利用者に食べたい物を聞き取り、決めている。食べ方があまりにも早い方には、ゆっくり食べるよう声かけしているが、自分のペースで食べている。おやつレク時には、利用者と一緒に作って楽しめるようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量は、記録に記入して、確認しながら、体調管理に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力に応じ、声かけ、一部介助をおこなっている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の能力に応じて、定時でのトイレ声かけ、誘導を行っている。	できるだけトイレでの排泄を目標としている。自立に向けて、できる所は行って貰い、一部を介助するようにしている。トイレ誘導は、本人の側へ行き声かけし、自尊心を傷つけない声かけを行う様心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	内服薬で調整しているが、それでも困難な場合は、体操などの声かけを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望や体調に合わせて入浴支援している。	入浴を嫌がる方には、職員を変えて声かけしたり、時間をずらしたりしている。ヒートショックを防ぐため、特に冬期間中は、早めに暖房を入れて浴室と脱衣室の温度差をなくしている。羞恥心に配慮し、衣類の着脱時には、タオルで隠すなどしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	臥床時間を設けている。夜間、なかなか寝られない利用者様に対しては、眠くなるまで話をしたりして、ご自分のペースで居室へ戻って頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を確認し、薬の目的・用法・用量を理解し、体調や行動などに変化があれば、医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の体操やレクへの参加に加え、外出レクやドライブに出かけることにより、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ベランダに出て、プランターに野菜や花の苗を植え、外気浴も行っている。	外の空気や光を浴びることの意味や役割を職員が理解して、外気浴が出来る外出レクも企画している。行事等で出かけるときは、体調管理と出先のルート確認、トイレ場所の確認を行い、安全・安心に出掛けられるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は施設で預かっており、買い物などで使用できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や家族の希望があれば、電話対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは、季節を感じられる装飾にしている。また過ごしやすい温度設定、環境作りに努めている。	一人ひとりがそれぞれ、思い思いにフロアだったり、居室で過ごしている。歩行の妨げにならないよう、動線に物を置かないようにしている感染症対策で、手洗い、うがい、手指消毒を徹底し、窓を開けて換気し、空気の流れを作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では、テレビをつけているので、テレビを見られる方、会話される方とそれぞれがゆったり過ごせている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	本人の使い慣れた物や思い出の物などを持ってきて頂き、心地よく過ごせるようにしている。	入居時に本人、家族にその人の身体状況に合わせた家具やベッド等の配置の確認をしている。居室を間違えないよう、居室ドアに名前をつけている。清掃や衣替えは、居室担当者の職員が行い、整理整頓している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	月の催し物などの日程、または日付が分かるようにカレンダーを目につく所にはっている。		